

【 医 学 部 】

第 4 学 年

<生命科学・社会医学系>

基礎上級…………… 別 途

<臨床医学系>

臨床薬理学……………4- 1

性差医療……………4- 2

漢方医学Ⅲ……………4- 3

腫瘍内科学……………4- 4

医療と法……………4- 5

<総合教育>

医療入門Ⅰ

・症候論とケーススタディ

……………4- 6

・臨床実習入門……………4- 7

・医療と社会……………4- 8

・プライマリ・ケアと地域医療……………4- 9

社会的コミュニケーション……………4-10

男女共同参画……………4-11

医療入門Ⅱ……………4-12

科目・コース（ユニット）名：臨床薬理学

英語名称：Clinical pharmacology

担当責任者：鳥羽 衛

開講年次：4年 ， 学期：前期 ， 必修／選択：必修 ， 授業形態：講義

概要：薬物治療は疾患治療の大きな柱である。近年、科学の発展に伴い、顕著な薬効を示す薬や、新しい作用機序をもつ特徴のある薬が次々に開発され、多くの疾患ならびに治癒困難であった疾患も治癒可能になってきている。それに伴い有害作用（副作用）も起こりやすくなっており、また人口の高齢化により、複数疾患を有する患者が増加し、多剤併用による相互作用の発生頻度も高くなっている。医薬品の選択や、投与量、投与方法の決定など、従来医師の経験や勘に頼っていた「さじ加減」では対応困難となってきている。一方、リスクマネジメントの観点からみると、医薬品が関連する医療事故が非常に高い割合を占めてきている。

以上のことより、医薬品適正使用の実践には、まず1つめに処方ルールの基本を理解し、正確に処方せんを発行できることが必要となる。2つめに、科学的な薬効評価によって薬の適応を決定し、疾患に基づく薬物体内動態の変化に対応した投与設計を行い、安全でかつ有効な処方決定することが必要となる。具体的には、医薬品情報（特に医薬品添付文書）の入手方法、剤形と薬物動態関係、副作用、相互作用、血中濃度のモニタリング等を理解し、処方発行の際、必要となる基本的な知識を習得することが求められる。またがんが国民の疾病による死亡の最大原因となっている現状および「がん対策基本法」の施行を考慮し、特に重要と考えられる「抗がん剤」使用時の留意点ならびに疾病の治療とともに重要となる患者QOLの向上に寄与する疼痛緩和に関して、使用する医薬品の使い方と使い分けについても学ぶ。

学習目標：

- 1) 剤形（投与方法）を列挙し、その薬物動態を説明できる。
- 2) 処方せんのルールを理解し、正しい処方せんを作成できる。
- 3) 副作用を分類し、副作用報告をどのように行うのか説明できる。
- 4) 相互作用を分類できる。
- 5) 処方時参考とする基本的な医薬品情報の収集ができる。
- 6) がん患者へ用いる抗がん剤の使用時の留意点を説明できる。
- 7) 疼痛緩和薬の選択と使用方法について理解し、処方に適切に反映できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識 (※②～⑩はコアカリキュラム参照)	⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	●	実践の基盤と

					なる知識を示せることが単位認定の要件である
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。	△	
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。	△	
10)	根拠に基づいた医療 (EBM) と安全な医療	①	医療安全や感染対策 (標準的予防策 : standard precaution) が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	●	

垂直的統合授業の実施内容：該当なし

水平的統合授業の実施内容：該当なし

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：該当なし

テキスト：特に指定しない。各回、関連する資料を配付する。

参考書：

- ・ 研修医・医学生のためのくすりマニュアルー安全な薬物療法のためにー
伊賀立二編 南江堂
- ・ 緩和医療薬学 日本緩和医療薬学会編集 じほう
- ・ 薬物治療学 第7版 吉尾隆編 南山堂
- ・ 標準薬剤学 改訂第4版 渡辺善照、芳賀信編 南江堂

・PMDA（医薬品医療機器総合機構）のホームページ 【 <http://www.info.pmda.go.jp/> 】

成績評価方法：毎回の講義後に実施する講義内容に関する豆テスト、定期試験、出席日数により総合的に評価される。

その他（メッセージ等）：不明な点は講義中であっても積極的に質問し、確認すること。講義時間外の質問などは薬剤部・鳥羽までご相談ください。

授業スケジュール／担当教員等：

鳥羽 衛（公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部副部長・医学部助教）

* 講義場所は 6 号館第 4 講義室を予定している。

回数	講義日	時限	項目/内容（キーワード）
1 回	5 月 26 日（火）	4 時限	「剤形と処方せんの書き方(1)」 剤形、薬物動態、処方せん様式
2 回	5 月 26 日（火）	5 時限	「剤形と処方せんの書き方(2)」 処方上の留意点
3 回	6 月 2 日（火）	4 時限	「剤形と処方せんの書き方(3)」 間違いやすい処方
4 回	6 月 2 日（火）	5 時限	「医薬品情報」 添付文書、医薬品インタビューフォーム
5 回	6 月 9 日（火）	4 時限	「副作用」 副作用、重篤度分類、自主報告
6 回	6 月 9 日（火）	5 時限	「医薬品相互作用・TDM」 薬物相互作用、抗菌薬 TDM
7 回	6 月 16 日（火）	4 時限	「疼痛緩和」 オピオイド、用量換算

8回 6月16日(火) 5時限 「抗がん剤使用時の留意点」
抗がん剤、レジメン、曝露、安全使用

9回 6月23日(火) 4時限 「医薬品開発と治験(1)」
治験、IRB、CRC, 医師主導治験

10回 6月23日(火) 5時限 「医薬品開発と治験(2)」
治験、IRB、CRC, 医師主導治験

科目・コース（ユニット）名：性差医療 医学4

英語名称：Gender-specific medicine

担当責任者：小宮 ひろみ

開講年次：4年， 学期：前期， 必修／選択：必修， 授業形態：講義

概要：性差医療とは性差とライフステージを意識した医療である。本講義は性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また病態に焦点をあて行う。どのような医学領域でも性差を意識した医療を展開することの重要性を講義する。さらに性差医療の特徴である Narrative based medicine (NBM) についてその必要性を考える。また、女性外来では漢方療法が頻用されており、その有用性についても講義する。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：

- 1) 性差を決定する染色体、性ホルモン、内外性器、ジェンダーに関してその特徴を説明できる。
- 2) 性差医療の概念と歴史・背景を説明できる。
- 3) 心疾患、高血圧、脂質異常症、泌尿器科疾患、メンタルヘルス、更年期症候群、骨粗鬆症の病態における性差の特徴を説明できる。
- 4) 性差医療における NBM と漢方療法の有用性を理解する。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム		科目達成レベル	
4. 知識とその応用			
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に活用ができる。			
1)	医療を実行するための知識 (※②～⑩はコアカリキュラム参照)	① 生命科学を理解するための基礎知識 (1) 性差を決定する要因 1) 染色体の性決定機序を説明できる 2) 内外性器の性決定要因を説明できる 3) 性ホルモンが性差に果たす役割を説明できる 4) ジェンダーの概念を説明できる	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		<p>② 生命現象の科学(細胞と生物の進化)</p> <p>(1) 遺伝的性決定・性分化を経て性差構築のプロセスを概説できる</p> <p>(2) 全ての細胞が性をもつことを理解できる</p>	●		
		<p>③ 個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝</p> <p>(1) 精巣と卵巣の解剖、発生を説明できる</p> <p>(2) 性ホルモンの制御機構を説明できる</p> <p>(3) 男性ホルモンと女性ホルモンの作用を説明できる</p> <p>(4) 性ステロイドの合成経路を説明できる</p>	●		
		<p>⑥ 人の心理と行動、コミュニケーション</p> <p>(1) Narrative based medicineを理解できる</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	
		<p>⑦ 人体各器官の疾患 診断、治療</p> <p>(1) 心疾患と性差について説明できる</p> <p>(2) メンタルヘルスと性差について説明できる</p> <p>(3) 泌尿器科疾患と性差について説明できる</p> <p>(4) 骨粗鬆症と性差について説明できる</p>	●		
		<p>⑧ 全身性疾患の病態、診断、治療</p> <p>(1) 高血圧・脂質異常症と性差について説明できる</p> <p>(2) 更年期症候群と性差について説明できる</p>	●		
		<p>⑨ 全身におよぶ生理的変化(成長と発達、加齢・老化と死)</p> <p>(1) 思春期 性成熟期 更年期 老年期の心身における性差の特徴を概説できる</p>	●		
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	<p>① 患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。</p> <p>(1) Narrative based medicineを実践しながら、病歴を</p>	●	実践の基盤となる知識を示	

			適切に聴取することができる		せることが単位認定の要件である
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	●	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	●	
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。 (1) 適切な治療法の選択肢として漢方療法を考えることができる。	●	
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	●	
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	●	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

垂直的統合授業の実施内容：該当なし

水平的統合授業の実施内容：該当なし

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：該当なし

テキスト：指定しない

参考書：

Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato, Elsevier academic press, USA

性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 じほう

性差医療 性差医学が医療を変える 編集 天野恵子 (真興交易出版部)

成績評価方法：

①出席状況 ②期末試験 ③レポートで行う。出席状況は授業中実施する小テストで確認する。出席率が60%に満たない場合は期末試験の受験を認めないので注意すること。

その他（メッセージ等）：

授業スケジュール／担当教員等：

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1	5月26日	6	第4 講義室	小宮ひろみ	性差医療の概念・歴史・背景
2	6月2日	6	第4 講義室	小宮ひろみ	性差の構築①(臨床医学的立場から)
3	6月9日	6	第4 講義室	丹羽真一 (会津医療センター) 小宮ひろみ	メンタルヘルスと性差
4	6月9日	7	第4 講義室	諸橋憲一郎 (九州大学 性差生物学講座) 小宮ひろみ	性差の構築②(基礎医学的立場から)
5	6月12日	6	第4 講義室	小川総一郎 (福島県立医科大学泌尿器科) 小宮ひろみ	泌尿器科疾患と性差
6	6月19日	6	第4 講義室	天野恵子 (静風荘病院) 小宮ひろみ	高血圧・脂質異常症と性差
7	6月23日	6	第4 講義室	嘉川亜希子 (鹿児島大学 上山病院) 小宮ひろみ	心疾患と性差

8	6月26日	6	第4 講義室	小宮ひろみ	骨粗鬆症・更年期症候群と性差
9	7月3日	6	第4 講義室	小宮ひろみ	Narrative based medicine 性差外 来 女性医療と漢方療法について

※小宮 ひろみ 教授 附属病院性差医療センター

科目・コース（ユニット）名：漢方医学Ⅲ【医学4】

英語名称：Kampo medicineⅢ

担当責任者：三瀧 忠道（漢方医学）

開講年次：4年， 学期：前期， 必修／選択：必修授業， 授業形態：講義および実習

概要：我が国の臨床医の80-90%は漢方製剤の処方経験があるとされ、鍼灸を臨床現場で活用している医師や施設も多い。漢方における具体的な診察と治療の方法を学び、臨床実習さらに実地臨床に備えることを目的とする。

医師として実務経験のある教員が担当する科目：各専門の実務経験ある教員が担当

1～6、10※：湯液診療の実務経験がある医師

7～9、11※：臨床経験のある鍼灸師

12※：漢方調剤や生薬鑑定の実務経験がある薬剤師

※：実習、10※～12※は順不同

学習目標：

1. 六病位における主要な方剤について、証に基づいた適応を説明できる。
2. 気血水の病態に対応する主要な方剤について、証に基づいた適応を説明できる
3. EBMを理解し、代表的な漢方処方におけるエビデンスの例を説明できる
4. 湯液診療の四診（特に切診）を経験し、模擬患者に適応する方剤候補をあげられる。
5. 鍼灸診療において証に基づいた治療について説明ができる。
6. 模擬患者に対し、安全性を確保し正しい手順で鍼灸の施術ができる。
7. 資料を参考に調合した生薬を鑑別し、具体的な方剤名を推測できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム		科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
2)	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△ 修得の機会があるが単

4)	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
	法令、医師会等の規範、機関規定	②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
	2. 生涯教育				
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	<p>情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける：</p> <p>1) 資料を参考に、複数の代表的生薬について鑑別ができる。</p> <p>2) 代表的な漢方処方におけるエビデンスを、例を挙げて説明できる</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
4. 知識とその応用					

<p>基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。</p>					
			<p>漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる：</p> <p>六病位や気血水の病態に基づき、模擬的症例の適応方剤を考察できる。</p> <p>鍼灸においてEBM と証を理解し、鍼灸のメカニズムと代表的な適応について概説出来る：</p> <p>EBM と証に基づき、模擬的症例に対して安全を確保しながら刺鍼が行える。</p>	○	<p>模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である</p>
<p>5. 診療の実践</p>					
<p>患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。</p>					
2)	身体観察	①	<p>鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる：</p> <p>脈診、舌診、腹診の基本を実践できる。</p>	○	<p>模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である</p>
5)	診断と治療法の選択	①	<p>適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。</p>	○	<p>模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である</p>
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	<p>医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。</p>	○	<p>模擬的な問題解決に知識を応用できることが</p>

					単位認定の 条件である
--	--	--	--	--	----------------

垂直的統合授業の実施内容：該当なし

水平的統合授業の実施内容：該当なし

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：

湯液診察・鍼灸診療・生薬について、知識だけではなく実習要素を取り込んだ体験的学習を実施し、実臨床で応用する基本を身につける。

テキスト：はじめての漢方診療 ノート、医学書院

参考書：

- はじめての漢方診療 十五話、医学書院
「はじめての漢方診療ノート」の姉妹版で、丁寧な解説が書いてある。
- 学生のための漢方医学テキスト、日本東洋医学会
- 症例から学ぶ和漢診療学、医学書院
- 漢方概論、創元社
- 漢方 210 処方 生薬解説、じほう
主要な漢方処方を構成する生薬について、成分や漢方医学的位置づけを解説。
- 経絡・ツボの教科書、新星出版社
- 鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス 医歯薬出版株式会社

成績評価方法：①の条件を満たしたうえで②で判断する。

①「医学部履修規程」第7条による講義出席時間を満たすこと

ただし第10～12番目の講義（7月15日）の出席は原則として必須とする

②期末試験

その他（メッセージ等）：実地臨床で漢方を応用する際に役立つように、診察から治療までの実際を具体的あるいは体験的に学習してほしい。

授業スケジュール／担当教員等：

	授業実施日	時 限	場所	担当教員	授業内容
1	6月17日 (水)	IV	第4講義室	三瀨忠道 (漢方医学)	主要処方とその運用(1) 六病位の適 応方剤とその運用① 陽証(1) 太陽病の主要処方 少陽病の主要処方(柴胡剤)

2	6月17日 (水)	V	第4講義室	三瀨忠道 (漢方医学)	主要処方とその運用(2) 六病位の適応方剤とその運用② 陽証(2) 少陽病の主要処方(柴胡剤以外) 陽明病の主要処方
3	6月17日 (水)	VI	第4講義室	三瀨忠道 (漢方医学)	主要処方とその運用(3) 六病位の適応方剤とその運用③ 陰証 陰証の主要処方
4	7月1日 (水)	IV	第4講義室	齋藤龍史 (漢方医学)	主要処方とその運用(4) 気血水の異常からみた適応方剤の運用① 気の病態と適応方剤 血の病態と適応方剤
5	7月1日 (水)	V	第4講義室	齋藤龍史 (漢方医学)	主要処方とその運用(5) 気血水の異常からみた適応方剤の運用② 血の病態と適応方剤(続) 水の病態と適応方剤
6	7月1日 (水)	VI	第4講義室	齋藤龍史 (漢方医学)	EBM と漢方 EBM の考え方と漢方、代表処方におけるエビデンスの紹介
7	7月8日 (水)	IV	第4講義室	鈴木雅雄 (漢方医学)	証を用いた鍼灸の方法
8	7月8日 (水)	V	第4講義室	加用拓己 (漢方医学)	刺鍼手技に関する講義と演習
9	7月8日 (水)	VI	第4講義室	伊藤和憲 (明治国際医療大学)	鍼灸の効果について(痛みを中心に養生学のすゝめ)
10 ※	7月15日 (水)	IV	実習室C (8号館2階)	三瀨忠道、齋藤龍史、畝田一司(漢方医学)、小宮ひろみ(漢方内科)	※実習:湯液診療の診察実技 四診 脈診 舌診 腹診
11 ※	7月15日 (水)	V	大会議室 (7号館2階)	鈴木雅雄、加用拓己(漢方医学) 他	※実習:鍼灸診療の実技
12 ※	7月15日 (水)	VI	生理・公衆衛生学実習室 (4号館5階)	秋葉秀一郎、佐橋佳郎(漢方医学) 他	※実習:生薬の選品と調剤、製剤 生薬の鑑別、鑑定

※ 10・11・12(7月15日)は3群に分かれ、3分野を順次交代で実習する。

科目・コース（ユニット）名：腫瘍内科学【医学4】

英語名称：Medical Oncology

担当責任者：佐治重衡

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修授業，授業形態：講義

概要：

日本の死因の第1位はがんであり、その多くの患者さんにがん薬物療法が必要となる。これまでがん薬物療法は各臓器別に行われてきたが、がん薬物療法を臓器横断的にも行うことができる腫瘍内科の重要性が認識されている。がんの病態を理解し、薬物療法を中心としたさまざまな対処方法を学ぶことを目標とする。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：

【一般目標】

がんの薬物療法について理解できる。

【行動目標】

1. がん薬物療法に使用される薬剤の作用機序を理解する。
2. 治療効果判定方法 (RECIST) を理解し説明する。
3. 薬剤の有害事象とその評価方法 (CTCAE)、対処法を理解する。
4. 代表的な癌腫における治療戦略について説明できる。
5. がん患者の身体的・社会的苦痛に共感する。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
2. 生涯教育			
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。			
1)	科学的情報の収	① 情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△ 修得の機会があるが、単位認定に関係ない。

	集・評価・管理	②	入手した情報を統計学的手法に適用させて評価でき、それを基に論文作成・研究実施の基礎となる症例提示やレポート作成ができる。	△
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△
4. 知識とその応用				
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。				
1)	医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参照)	④	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物） ・癌免疫に関わる細胞性機序を概説できる。 ・薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。	●
		⑤	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍） ・癌の原因や遺伝子変化を説明できる。 ・腫瘍の分類、分化度、グレード、ステージを概説できる。 ・癌の診断と治療を概説できる。 ・癌の転移を説明できる。	●
				基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。

		<p>全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）</p> <p>腫瘍</p> <p>(1) 定義・病態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の定義と病態を説明できる。 ・腫瘍の症候を説明できる。 ・腫瘍のグレード、ステージを概説できる。 <p>(2) 診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の検査所見を説明できる。 ・腫瘍の画像所見や診断を説明できる。 ・腫瘍の病理所見や診断を説明できる。 <p>(3) 治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の集学的治療を概説できる。 ・腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬）を概説できる。 ・腫瘍の生物学的療法を概説できる。 ・腫瘍における支持療法を概説できる。 ・腫瘍における緩和ケアを概説できる。 <p>(4) 診療の基本的事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。 ・腫瘍の診療における生命倫理（バイオエシックス）を概説できる。 ・腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識できる。 	●	<p>基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。</p>	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	<p>実践の基盤となる知識を示せることが単位認</p>
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。		

3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。		定の要件である。
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。		
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。		
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。		
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。		
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。		
10)	根拠に基づいた医療 (EBM) と安全な医療	①	医療安全や感染対策 (標準的予防策 : standard precaution) が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。		
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		

	③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。		
	④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。		

垂直的統合授業の実施内容： 他科で習得済みあるいは習得予定である各臓器の腫瘍（特に悪性腫瘍）に関して、治療全般（抗がん薬治療・手術・放射線照射・ホルモン療法などの標準的療法の考え）の流れを指導し、腫瘍治療の全般の流れを指導する。

水平的統合授業の実施内容： 各臓器の腫瘍（特に悪性腫瘍）に対する抗がん薬治療、特に現在のエビデンスに即した標準治療、その考え方を指導する。

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容： エビデンスのとらえ方、治療効果判定法、有害事象の評価法、統計学的な解釈、臨床試験の開発法などを指導し、今後、医師として臨床試験・治験などに中心的な役割で参加するような内容を指導する。

テキスト： 特に指定しない。

参考書： 新臨床腫瘍学 南江堂
がん診療レジデントマニュアル 医学書院

成績評価方法： 出席日数は総授業数の 2/3 以上の出席を必要とする。
筆記試験・出席日数により総合的に評価する。

授業スケジュール／担当教員等：

<授業内容> 場所： 6号館2階第4講義室

5/27 水 (IV 13:00-14:00) 総論 がん薬物療法 担当：佐治重衡
5/27 水 (V 14:10-15:10) 各論 腫瘍と遺伝 担当：徳田恵美
6/3 水 (IV 13:00-14:00) 各論 薬物療法で治るがん 担当：佐々木栄作
6/3 水 (V 14:10-15:10) 各論 がん緩和ケア 担当：阿左見祐介
6/10 水 (IV 13:00-14:00) 各論 がんの臨床試験について 担当：佐治重衡
6/10 水 (V 14:10-15:10) 特別 がん患者さんからのメッセージ
担当：佐治重衡、鈴木牧子
6/18 (IV 13:00-14:00) 各論 造血器腫瘍 担当：野地秀義

担当教員：

佐治重衡 教授 腫瘍内科学講座

徳田恵美 講師 腫瘍内科学講座

佐々木栄作 助手 腫瘍内科学講座

阿左見祐介 病院助手 腫瘍内科学講座

鈴木牧子 「ひいらぎの会」代表世話人

野地秀義 病院助手 腫瘍内科学講座

科目・コース（ユニット）名：医療と法

英語名称：Medical Law

担当責任者：藤野美都子 人間科学講座（生命倫理学分野）

開講年次：4年生，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義

概要：

医事法学とは、医療取り巻く様々な法的問題を対象とし、これを考察する学問である。人の生命・健康に直接関わる医療に対しては、様々な観点から法的な規制が加えられている。適切な医療を確保するために、医療関係者と医療施設について法的規制が行なわれている。さらに、すべての人に医療が行き渡るように医療保険制度が整備されている。授業では、まず、医療をめぐる法制度について概説する。次に、今日大きな社会問題となっている医療事故をめぐる諸問題について、具体的事例に即して受講生間で検討する。

授業では、患者の権利を保障する医療を実現するために法制度はどうあるべきかという問題関心を持ちつつ、具体的な問題について受講生に考えてもらえるよう心掛けたい。

学習目標：

一般目標

- 1) 患者の権利を保障する医療を実現するために必要とされる法的知識を身につけ、これを使いこなす力を修得する。
- 2) 患者の権利を保障する医療を実現するために様々な問題に対処できる法的なものの方を修得する。

行動目標

- 1) 患者の権利の内容と、患者の権利を保障する意義について説明できる。
- 2) 医療関係者・医療施設に関する法的規制について説明できる。
- 3) 医師の公法上の義務と契約上の義務について説明できる。
- 4) インフォームド・コンセントの定義とその意義について説明できる。
- 5) 医療過誤における医師の法的責任について説明できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
---------	---------

1. プロフェッショナリズム				
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。				
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		③	利益相反について説明できる。	
2. 生涯教育				
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	—
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

3)	自己啓発 と自己鍛 錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	—	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	—	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。

		② インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）				
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>				
1)	医療と地域	① 保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		② 各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		④ 疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

垂直的統合授業の実施内容：

薬害から学ぶ（1年生）・生命倫理（1年生）

水平的統合授業の実施内容：

医療と社会（4年生）

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：

テキスト：手嶋豊『医事法入門（第5版）』有斐閣・2018年

参考書：『医事法判例百選（第2版）』（有斐閣・2014年）

この他、テーマごとに授業時間内に適宜紹介する。

成績評価方法：

授業への参画態度（40点）＋提出課題（20点）＋筆記試験（40点）（テキストの持込可）
60点以上を合格とする。

その他（メッセージ等）：

受講生が「自ら考える」ことを基本とし、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、医事法を学ぶ上で、医療を取り巻く社会状況に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて情報を収集し、今日の社会状況に関する理解を深めることを期待します。

授業スケジュール／担当教員等：

	授業実施日	時間	場所	担当教員	授業内容
1	9月10日 (木)	Ⅲ	第4講義室	藤野	講義案内・医事法入門：医療行為の正当性
2	9月10日 (木)	Ⅳ	第4講義室	藤野	患者の権利：医療の主体としての患者・患者の権利に関するリスボン宣言
3	9月10日 (木)	Ⅴ	第4講義室	藤野	インフォームド・コンセント：ICをめぐる判例の動向 オンライン診療・AI活用診療をめぐる法的問題点
4	9月10日 (木)	Ⅳ	第4講義室	大須賀	医療保険制度：全世代型社会保障制度における医療保険のあり方
5	9月11日 (金)	Ⅳ	第4講義室	藤野	医療施設の法規制：医療法など・医師不足問題
6	9月11日 (金)	Ⅴ	第4講義室	藤野	医療関係者の法規制：医師法、保健師助産師看護師法など
7	9月11日 (金)	Ⅵ	第4講義室	藤野	医師の権利・義務：公法上の義務と契約上の義務
8	9月15日 (火)	Ⅳ	第4講義室	藤野	医療過誤①：医療過誤における医師の法的責任
9	9月15日 (火)	Ⅴ	第4講義室	藤野	医療過誤②：医療過誤における医師の法的責任
10	9月15日 (火)	Ⅵ	第4講義室	藤野	診療情報の保護：診療情報の利用と保護
11	9月17日 (木)	Ⅵ	第4講義室	秋野	予防法規：感染症対策と患者の権利保障

担当者：

大須賀健一 放射線医学県民健康管理センター 国際連携室室長

秋野公造 参議院議員 厚生労働省健康局疾病対策課課長補佐・医薬食品局血液対策課課長補佐・東京空港検疫所支所長を歴任

藤野美都子 人間科学講座（生命倫理学分野） 教授

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（症候論とケーススタディ）

英語名称：Clinical Reasoning & Case study

担当責任者：紺野慎一（整形外科科学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）、風間順一郎（腎臓高血圧内科学講座）

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義、Team-based learning (TBL)、グループワークによる演習

概要：このユニットは、（1）症候論、（2）多職種連携授業から成る。これまでは病気について「疾患名→病態→症状・身体所見・検査所見」の流れで学習してきた。しかし、臨床現場では、患者さんが訴える症状（symptom）から疾患を想定し、病歴や観察した聴講（sign）を基に疾患の同定（診断 diagnosis）を行う思考の流れが必要になる。症候論で、コア・カリキュラムであげられている主要37症候について、診断を確定させるまでの論理的アプローチ法を修得する。一方、患者さんのケアには、医学的な判断に加えて患者さんの社会的・心理的背景を踏まえた判断が必要になる。他職種連携授業では、看護学部学生と合同のケーススタディを介して、患者中心の医療を実践するために必要な多角的視点からの思考・判断が必要であることを学ぶ。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：

（1）症候論

1. 主訴・症状から可能性のある疾患を想起できる
2. 経過を基に、想起した疾患の重みづけ（頻度、重症度、緊急度）ができる
3. 必要な身体診察項目を挙げるができる
4. 身体所見を解釈できる
5. 診断に必要な検査を、優先順位を考慮してあげることができる
6. 検査所見を解釈できる

（2）

1. 患者の社会的・心理的背景を踏まえて診療方針を考えることができる
2. 最良の診療方針を選択するために、他職種とお互いの知識、情報、考えを交換することができる

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	○	
		③	利益相反について説明できる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

2)	自己啓発 と自己鍛 錬	②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価 を行い、自身で責任を持って考え、行動でき る。	○	基盤とな る態度、 スキルを 示せるこ とが単位 認定の要 件である
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学 習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、 自ら必要な学習）により、常に自己の向上を 図ることができる。	△	修得の機 会がある が、単位 認定に関 係ない
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互 いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとるこ とができる。					
2)	医療チー ムでのコ ミュニケ ーション	③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能 力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメ ンバーとして議論に参加できる。	○	基盤とな る態度、 スキルを 示せるこ とが単位 認定の要 件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の 領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践 に活用ができる。					
1)	医療を実 行するた めの知識 (※②～ ⑩はコア カリキュ	④	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）	○	模擬的な 問題解決 に知識を 応用でき ることが 単位認定
		⑤	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞 死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、 腫瘍）	○	
		⑥	人の心理と行動、コミュニケーション	○	
		⑦	人体各器官の疾患 診断、治療	○	

ラム参照)	⑧	全身性疾患の病態、診断、治療	○	の要件である
	⑨	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）	○	
	⑩	疫学と予防、人の死に関する法	○	
	⑪	診断の基本（症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能）	○	
5. 診療の実践				
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。				
2)	身体観察	① 鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に係らない
3)	検査の選択・結果解釈	① 頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	○	模擬的診療を實踐できることが単位認定の要件である
4)	臨床推論・鑑別	① 得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	○	
5)	診断と治療法の選択	① 適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
6)	診療録作成	① 臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	○	模擬的診療を實踐できることが単位認定の要件である
7)	療養計画	① 患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	●	基盤となる知識を

					示せるこ とが単位 認定の要 件である
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を 理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理 的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思 考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョ ンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機 会がある が、単位 認定に関 係ない

垂直的統合授業の実施内容：該当なし

水平的統合授業の実施内容：「症候論」は、疾患ごとに修得した知識を横断的に駆使しな
なければならない。

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：症候論 TBL は本学独自の
方法で行われる。

テキスト：指定しない。授業ごとに予習資料を配布する。TBL 授業参加には、配布資料及び
内科学、内科診断学の教科書等による予習が必須である。

参考書：「内科学」矢崎義雄 総編集 朝倉書店、「ハリソン内科学」福井次矢、黒川清 監修
メディカル・サイエンス・インターナショナル、「内科診断学」福井次矢、奈良信雄 編集 医
学書院

成績評価方法：①授業出席、②授業態度（TBL、他学部合同授業の相互評価含む）、③授業時
間内の試験（TBL の IRAT、GRAT、終了試験を含む）及びレポートに基づいて評価する。2/3
以上の出席と 100 点満点に換算した②+③の点数が 60 点以上であることが単位認定要件で
ある。

授業スケジュール／担当教員等：別途通知する。

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（臨床実習入門）

英語名称：Introduction to Medical Training

担当責任者：紺野慎一（整形外科講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）、
木村隆（外科研修支援担当）、濱口杉大（総合内科学講座）

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義、実習

概要：診療参加型臨床実習に必要なとされる臨床技能の修得を確実にするための学習ユニットである。Student doctor として参加型臨床実習を行うためには、このコースで学ぶ全ての臨床手技を身に着けていなければならない。しかし、臨床手技を修得する上で最も重要なことは、何のためにその操作をその手順で行うのか、理論的背景を理解していることである。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：診療参加型臨床実習を行うにあたって必要とされる臨床技能を、それぞれの目的・意味を理解した上で実践できる。

1. 診断のための適切な医療面接ができる。
2. 全身（頭頸部、胸部、腹部、四肢・脊柱、神経系、バイタルサイン）の系統的な診察ができる。
3. 基本的な救命救急処置ができる。
4. 基本的検査手技を行える。
5. 基本的処置とそのための清潔操作ができる。
6. 英語による初診患者の医療面接ができる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せ
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	ることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定には関係ない
2)	自己啓発と自己鍛錬	②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参)	⑥	人の心理と行動、コミュニケーション	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定
		⑪	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	○	

	照)				の要件で ある
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●	
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
10)	根拠に基づいた医療 (EBM) と安全な医療	①	医療安全や感染対策 (標準的予防策 : standard precaution) が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

垂直的統合授業の実施内容 :

水平的統合授業の実施内容 : 全ての診療科の診察に必要な基本的な手技を学ぶ。

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容 :

テキスト : 指定しない

参考書 : 「臨床実習開始前の教養試験」第 8 版 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO)

「OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技」車谷典男、古家仁
監修 診断と治療社

成績評価方法 : 単位認定には 5 分の 4 の演習の出席を要する。出席に加えて到達度、取

り組みの姿勢を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：この授業で扱う手技は student doctor の資格を得るのに必要なものであり、やむを得ない理由で欠席した場合には、当該 DVD を各自視聴すること。

授業スケジュール／担当教員等：別途通知する。

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（医療と社会）【医学4】

英語名称：medical care and society

担当責任者：佐藤薫 麻酔科学講座，藤野美都子 人間科学講座（生命倫理学分野）

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義とグループワーク

概要：

医療は人の社会的な営みという広い文脈の中に存在すると考えられる。しかし、今日は医療技術の進歩の側面を追い求めるあまり、患者・家族の個人的な精神性や社会性についてはおざなりになってきたと考えられる。日本においては、病気を抱える患者・家族に対しての全人的ケアと緩和医療の広がり国策の一つとなっているが、福島ではまだ浸透しているとは言い難い状況である。「緩和医療」の授業では、医療者の前に一人の‘人’として、死について深く考え、そして医療者として、がん患者の症状コントロールやコミュニケーション技術を学ぶ場としたい。

さらに、医療者には、日々の医療現場で、あるいは、先端医療の現場で直面する倫理的諸問題に対処することも求められている。「臨床倫理」の授業では、患者および家族の立場を理解したうえで、日々の医療に従事する姿勢を受講生が学ぶことができる場としたい。

学習目標：

緩和医療

- 1) 全人的な医療を理解し、説明ができる。
- 2) 緩和医療とはなにかを理解し、説明ができる。
- 3) 包括的ながん医療を理解し、説明ができる。
- 4) がん性疼痛の薬物治療（WHO3 段階除痛ラダー）について理解し、説明ができる。
- 5) 悪い知らせを患者に伝える際のコミュニケーション技術について理解し、今後の継続的な学習に役立てることができる。

臨床倫理

- 1) 臨床倫理に関する基本的事項を説明できる。
- 2) 先端医療をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- 3) 患者・家族の立場から、臨床倫理を考えることができる。
- 4) チーム医療の重要性について説明できる。
- 5) 研究倫理に関する基本的事項について説明できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	—
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	① 個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		③ 利益相反について説明できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2. 生涯教育			

医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	○	
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	○	
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	○	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	○	
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意を	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である

			はらい、診療チームの一員として議論に参加できる。		
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	○	
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。	○	

4. 知識とその応用

基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。

1)	医療を実行するための知識（※②～⑪はコアカリキュラム参照）	④	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）	●	
		⑥	人の心理と行動、コミュニケーション	●	

5. 診療の実践

患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。

2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係ない
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係ない

6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△	
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	△	
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

垂直的統合授業の実施内容：生命倫理（1年生）・死生観の歴史（1年生）・薬害から学ぶ（1年生）

水平的統合授業の実施内容：医療と法（4年生）・臨床実習入門（4年生）

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：該当しない

テキスト：指定しない。

参考書：

『緩和ケアレジデントマニュアル』医学書院・2016年

『がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか』医学書院・2007年

A. R. ジョンセンほか（赤林朗・大井玄監訳）『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ（第5版）』新興医学出版社・2006年

G. E. ペンス（宮坂道夫・長岡成夫訳）『医療倫理 よりよい決定のための事例分析』みすず書房・2000年

赤林朗編『入門・医療倫理 I（改訂版）』勁草書房・2017年

樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法（第2版）』有斐閣・2012年

成績評価方法：

緩和医療

①出席状況、②授業態度、③その他、必要と判断された学生においてはレポートの提出、に基づいて行う。

臨床倫理

①出席状況、②授業参画態度（コメントペーパー）に基づいて行う。

授業スケジュール／担当教員等：

緩和医療

	授業実施日	時 限	場 所	担 当 教 員	授 業 内 容
1	5月26日(火)	I	第4講義室	佐藤薫	総論 包括的緩和医療、トータルペイン
2	5月26日(火)	II	第4講義室	高橋まり	入門 家で家族を看取ること
3	5月26日(火)	III	第4講義室	高橋まり	入門 家で家族を看取ること
4	6月2日(火)	I	7号館大会議室	竹之内裕文	死生学Ⅰ 死と生の希望について考える
5	6月2日(火)	II	7号館大会議室	竹之内裕文	死生学Ⅱ 死と生の希望について考える
6	6月2日(火)	III	7号館大会議室	竹之内裕文	死生学Ⅲ 死と生の希望について考える

7	6月9日(火)	I	第4講義室	橋本孝太郎	在宅医療
8	6月9日(火)	II	第4講義室	三浦至	精神腫瘍学
9	6月16日(火)	I	第4講義室	佐藤薫	症状マネジメント がん性疼痛など
10	6月16日(火)	II	第4講義室	佐藤薫	コミュニケーション技術 悪い知らせの伝え方(ロールプレイ)

担当教員：

竹之内裕文 静岡大学創造科学技術大学院・農学部教授

高橋まり 遺族

橋本孝太郎 ふくしま在宅緩和ケアクリニック

三浦至 神経精神医学講座

佐藤薫 麻酔科学講座

臨床倫理

	授業実施日	時 限	場 所	担 当 教 員	授 業 内 容
1	6月5日(金)	IV	第4講義室	末永恵子 福田俊章 藤野美都子	講義案内・臨床倫理入門①臨床倫理の基本的概念
2	6月5日(金)	V	第4講義室	末永恵子 福田俊章 藤野美都子	臨床倫理入門②4分割法の活用
3	6月5日(金)	VI	第4講義室	尾藤誠司	医師のプロフェッショナリズム
4	6月10日(水)	VI	第4講義室	佐治重衡	セカンド・オピニオン
5	6月12日(金)	IV	第4講義室	清野弘子	産業看護師の役割:がん患者の就労支援
6	6月12日(金)	V	第4講義室	稲野彰洋	治験をめぐる倫理問題
7	6月19日(金)	IV	第4講義室	松本亜樹子	生殖補助医療をめぐる倫理問題①
8	6月19日(金)	V	第4講義室	松本亜樹子	生殖補助医療をめぐる倫理問題②
9	6月26日(金)	IV	第4講義室	井上昌和 浅川身奈栄	薬害から学ぶ①薬害被害者のお話を聞く
10	6月26日(金)	V	第4講義室	井上昌和 浅川身奈栄	薬害から学ぶ②薬害被害者のお話を聞く
11	7月3日(金)	V	第4講義室	鈴木眞一	遺伝カウンセリング
12	7月10日(金)	IV	第4講義室	福田俊章 末永恵子 藤野美都子	グループワーク:若年性認知症の告知①
13	7月10日(金)	V	第4講義室	福田俊章	グループワーク:若年性認知症の告知②

				末永恵子 藤野美都子	
14	7月10日(金)	IV	第4講義室	阿南陽二	臨床の現場から考える:日々の臨床問題
15	7月17日(金)	IV	第4講義室	藤野美都子 福田俊章 末永恵子	研究倫理入門:臨床研究法・倫理審査委員会の役割
16	7月17日(金)	V	第4講義室	藤野美都子 福田俊章 末永恵子	模擬倫理委員会

担当教員:

尾藤誠司 東京医療センター臨床研修科医長
佐治重衡 腫瘍内科学講座教授
清野弘子 両立支援コーディネーター・産業看護師
稲野彰洋 医療研究推進センター・臨床研究センター副センター長
松本亜樹子 NPO 法人 Fine 理事長
井上昌和 全国薬害被害者団体連絡協議会
浅川身奈栄 全国薬害被害者団体連絡協議会
鈴木眞一 甲状腺内分泌学講座教授
阿南陽二 古川民主病院 副院長
末永恵子 人間科学講座講師
福田俊章 人間科学講座准教授
藤野美都子 人間科学講座教授

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（プライマリ・ケアと地域医療）【医学4】

英語名称：Primary Care and Community Medicine

担当責任者：葛西 龍樹

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義

概要：地域医療の崩壊を防ぎ、地域住民のニーズに沿った質の高いプライマリ・ケアを実践するには、家庭医療学の原理を十分に学んで、それを実際に地域で展開していくことが必須です。このユニットでは、2018年度から「総合診療専門医」という名称で国を挙げて養成されることになったプライマリ・ケアの専門医が取り組む新しい医療について、系統的に学ぶ機会を提供しています。将来医学医療のどの分野へ進む医学生にとっても、家庭医療学を理解することは役に立ちます。その理解が無理なく進みように、興味の湧くケースを通して考えたり、映画の一部を用いた教育（シネメデュケーション）、ロールプレイ、グループ・ディスカッションなどを用いた授業を展開します。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：

- ①医療面接において、患者の illness（病気）の体験を探る質問ができる。
- ②健康問題に対する包括的アプローチ（複数の健康問題の相互作用等）を説明できる。
- ③家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療を説明できる。
- ④介護の定義と種類を説明できる。
- ⑤日常生活動作＜ADL＞（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。
- ⑥多職種連携の重要性を認識する。
- ⑦臨床現場において、医療・保険・福祉・介護に関する制度に触れる。
- ⑧地域包括ケアシステムと介護保険制度、障害者総合支援法等の医療保健福祉制度を概説できる。
- ⑨在宅医療の在り方、今後の必要性和課題を概説できる。
- ⑩在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。
- ⑪褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。
- ⑫在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方と課題を概説できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
2. 生涯教育				
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
3)	自己啓発と自己鍛錬	②	<p>独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p> <p>●</p>	<p>実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である</p>
		③	<p>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p> <p>●</p>	
3. コミュニケーション				
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。				
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	<p>医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。</p> <p>●</p>	<p>実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である</p>
		②	<p>患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。</p> <p>●</p>	
		③	<p>患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。</p> <p>●</p>	
		④	<p>医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。</p> <p>●</p>	
2)	医療チームでのコ	②	<p>インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。</p> <p>●</p>	

	コミュニケーション	③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	●	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参照)	⑥	人の心理と行動、コミュニケーション	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑨	全身におよぶ生理的变化(成長と発達、加齢・老化と死)	●	
		⑪	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	△	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	△	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	△	
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	

8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備がきている。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	●	
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	●	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	●	

垂直的統合授業の実施内容：「へき地医療とキャリア形成」の授業において、非常勤講師が臨床医学的側面と社会医学的側面を交えた統合的授業を行う。

水平的統合授業の実施内容：「世界の家庭医療と医学教育」の授業において、当講座と医療人育成・支援センターの教員が共同で授業を行う。

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：「家庭医療学、総合診療専門医、プライマリ・ケアと医療大転換」の授業において、当講座が取り組んでいる研究に触れる。

テキスト：

1. マクウィニー家庭医療学 上巻・下巻（ぱーそん書房）
2. 医療大転換-日本のプライマリ・ケア革命-（ちくま新書）

参考書：

1. スタンダード家庭医療マニュアル（永井書店）
2. 家族志向のプライマリ・ケア（丸善出版）
3. 診療ガイドラインが教えてくれないこともある（南山堂）

成績評価方法：

1 コマにつき出席＋課題（小テスト）で 10 点満点（出席と課題の配点は各担当教員による）
14 コマ×10 点＝140 点満点となり、6 割（84 点）以上で合格とする。
詳細については別途通知するとともに、初回講義の冒頭で教員より説明する。

その他（メッセージ等）：

福島県立医科大学では、県内に広がる新しい地域医療の診療・教育システムを構築するため、平成 18 年から家庭医療とその専門医の養成を推進しています。これは日本の大学医学部としては最初のことです。従来から日本の大学医学部などにある曖昧な総合診療ではなく、定義の明らかな世界標準の家庭医療を学んで、それを地域で実践できる機会を医学部の卒前教育・初期研修・後期研修を通じて提供しています。家庭医療とその学問分野家庭医療学に興味を持ち、積極的に学んでもらえることを期待しています。

授業スケジュール／担当教員等：

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1	5 月 28 日 (木)	I	第 4 講義室	葛西龍樹	家庭医療学、総合診療専門医 プライマリ・ケアと医療大転換
2		II	第 4 講義室	葛西龍樹	患者中心の医療の方法
3		III	第 4 講義室	葛西龍樹 Maham Stanyon	世界の家庭医療と医学教育
4	6 月 4 日 (木)	I	第 4 講義室	中村光輝	複数の健康問題と包括的アプローチ
5		II	第 4 講義室	中村光輝	家族志向ケアと多職種連携カンファレンス
6		III	第 4 講義室	中村光輝	家族志向ケアと在宅医療

					ワークライフバランス
7	6月11日 (木)	I	第4講義室	菅家智史	診療コミュニケーション
8		II	第4講義室		
9		III	第4講義室	森冬人	へき地医療とキャリア形成
10	6月18日 (木)	I	第4講義室	遠藤芽依	予防・健康増進・行動変容
11		II	第4講義室	遠藤芽依	褥瘡の予防、評価、治療とチーム医療
12		III	第4講義室	遠藤芽依 早坂史恵	地域包括ケアシステムと家庭医療
13	6月25日 (木)	I	第4講義室	菅家智史	介護保険、高齢者総合機能評価
14		II	第4講義室	菅家智史	Advance Care Planning

担当教員：

教員氏名 職名 所属

葛西龍樹／主任教授／地域・家庭医療学講座

菅家智史／講師／地域・家庭医療学講座

中村光輝／助手／地域・家庭医療学講座

遠藤芽依／助手／地域・家庭医療学講座

Maham Stanyon／助手／医療人育成・支援センター

森冬人／常勤医師／只見町国保朝日診療所

早坂史恵／生活相談員／介護付き有料老人ホーム シャローム

科目・コース（ユニット）名：社会的コミュニケーション論【医学4】

英語名称：Societal communication

担当責任者：村上道夫（健康リスクコミュニケーション学講座）・後藤あや（総合科学教育研究センター）・竹林由武（健康リスクコミュニケーション学講座）

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修授業，授業形態：講義

概要：

臨床現場における患者や家族とのコミュニケーションのみならず、地域保健の観点から、医療者は社会やコミュニティにおけるステークホルダーとの円滑なコミュニケーション能力が求められる。本講義では、そのような社会的コミュニケーションの基礎を学び、人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理といったコミュニケーション上に必要な要素について学ぶ。

学習目標：

- 1) 社会的コミュニケーションの基礎を説明できる
- 2) 人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理といったコミュニケーション上に必要な要素について説明できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。 コミュニケーションにおける価値観の重要性について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。 コミュニケーションやインフォームドコンセントに関する個人情報・守秘義務などについて説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。 コミュニケーションやインフォームドコンセントに関する規定について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	利益相反について説明できる。 コミュニケーションやインフォームドコンセントに関する利益相反について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

			コミュニケーションに必要な情報提供や情報入手について説明できる。		
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。 健康に関する情報、リテラシーについて説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。 健康に関する情報の倫理について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。 患者、家族、社会やコミュニティとのステークホルダーとのコミュニケーションスキルについて概説できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。 コミュニケーションにおいて各人の様々な背景要因が関連することを説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		<p>③ 患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。</p> <p>コミュニケーションの方法が、相手の心理に影響を及ぼしうること、相手の心に根差したコミュニケーションが重要であることを説明できる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		<p>④ 医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。</p> <p>コミュニケーションにおける特別な配慮の重要性を説明できる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		<p>⑤ 社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。</p> <p>コミュニケーションにおける相手との協働の重要性を説明できる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	医療チームでのコミュニケーション	<p>① 他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。</p> <p>コミュニケーションにおけるチームとしての協働について概説できる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		<p>② インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		コミュニケーションやインフォームドコンセントの意義や手順について説明できる。		
		③ 他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。 多職種との円滑なコミュニケーションに必要な要素を説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		④ チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。 コミュニケーションにおける医師のリーダーシップについて説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤ 診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。 コミュニケーションにおけるチーム内情報伝達について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践				
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。				
8)	患者へ説明	① 指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。 患者や家族への情報伝達のあり方について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

2)	福島 の災 害から学 ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

7. 医学/科学の発展への貢献

総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1)	科学的 思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。 科学的な根拠に基づくコミュニケーションについて概説できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。 適切なコミュニケーションの基礎となる理論と方法について概説できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

			コミュニケーションがもたらす作用の評価に関する方法について、概説できる。		
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。 コミュニケーションにおける研究領域について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	福島から世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	福島の特性から生じる医療上の問題を、科学的・論理的に思考することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

垂直的統合授業の実施内容：該当なし

水平的統合授業の実施内容：該当なし

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：該当なし

テキスト：なし

参考書：以下を参考図書とする。

1. 中谷内一也編：リスクの社会心理学 有斐閣
2. National Research Council 編、林裕造、関沢純監訳：リスクコミュニケーション 前進への提言

成績評価方法：

成績評価は①出席状況、②授業態度、③レポートに基づき行う。必要に応じてテストを行う可能性もある。

授業スケジュール／担当教員等：

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1	5月29日(金)	II	第4講義室	村上道夫(健康リスクコミュニケーション学講座)	序論・概要
2	5月29日(金)	III	第4講義室	村上道夫(健康リスクコミュニケーション学講座)	福島災害とコミュニケーション
3	6月5日(金)	II	第4講義室	竹林由武(健康リスクコミュニケーション学講座)	コミュニケーションスキル、シェアード・ディジジョン・メイキング
4	6月5日(金)	III	第4講義室	竹林由武(健康リスクコミュニケーション学講座)	コミュニケーションスキル、シェアード・ディジジョン・メイキング
5	6月12日(金)	II	第4講義室	越智小枝(東京慈恵会医科大学)	地域医療、科学とコミュニケーション
6	6月12日(金)	III	第4講義室	越智小枝(東京慈恵会医科大学)	地域医療、科学とコミュニケーション
7	6月19日(金)	II	第4講義室	後藤あや(総合科学教育研究センター)	ヘルスリテラシー
8	6月19日(金)	III	第4講義室	後藤あや(総合科学教育研究センター)	ヘルスリテラシー
9	6月26日(金)	II	第4講義室	五十嵐泰正(筑波大学)	食品をめぐる対話、福島災害
10	6月26日(金)	III	第4講義室	五十嵐泰正(筑波大学)	食品をめぐる対話、福島災害
11	7月3日(金)	II	第4講義室	竹林由武(健康リスクコミュニケーション学講座)	ストレスマネジメント
12	7月3日(金)	III	第4講義室	村上道夫(健康リスクコミュニケーション学講座)	医療者に求められるコミュニケーション要素、全体のまとめ

科目・コース（ユニット）名：男女共同参画 医学4

英語名称：Gender Equality

担当責任者：小宮 ひろみ

開講年次：4年，学期：前期，必修／選択：必修， 授業形態：講義 グループワーク

概要：

男女にかかわらず、医師として生涯を通じたキャリア形成は重要な課題である。本講義では、医学部1年で学んだ男女共同参画や医師のキャリアパスを理解した上で、医師として生涯にわたるキャリア形成のあり方を考える。また、卒後におこりうるライフイベントを想像し、より身近なこととして捉えられるようにグループ学習や先輩の体験談も交え、講義をすすめていく。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：

《学習総合》

- 1) 医師として男女共同参画の意義を考えることができる。
- 2) ワーク・ライフ・バランスについて説明できる。
- 3) 医師として生涯学習することが重要であることを理解できる。

《グループ学習》

- 1) 医師のキャリアパス中におこりうるライフイベントを多面的に想像できる。
- 2) 他者の考えを理解し、柔軟に考えることができる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

2. 生涯教育

医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

3)	自己啓発 と自己鍛 錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	

垂直的統合授業の実施内容：該当なし

水平的統合授業の実施内容：該当なし

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：該当なし

テキスト：指定しない

参考書：指定しない

成績評価方法：成績評価は①出席状況 ②小レポート（キャリア未来年表を含む）で行う。

その他（メッセージ等）：

学生は7人前後のグループとなり、指定箇所にて行う。提示されたシナリオに対して、グループに分かれ、学生が主体的に討論を行う。シナリオは①若い医師夫婦の子供（幼児）が突然発熱したケース ②妻の海外留学を迷うケースを提示する。まず、グループで討議し、選択肢及びその理由を記載した後、全体の発表会に続き、総合討論・総括を行う。

シナリオ作成者：小宮ひろみ 蓮沼直子（広島大学 医学教育センター）

行動目標：卒後のライフイベントをシュミレーションすることにより、その中で自らのキャリアをどのように形成していくべきか考えることができる。

授業スケジュール／担当教員等：

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1	10月2日	5	N301	小宮ひろみ	グループ学習
2		6, 7		協力者 蓮沼直子 (広島大学 医学教 育センター)	先輩医師の体験談を聞き、男女共同参画の意義について考える 未来年表を作成する

科目・コース（ユニット）名：医療入門 II

英語名称：Introduction to Medical Practice II

担当責任者：紺野慎一（整形外科講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）

開講年次：4年，学期：後期，必修／選択：必修，授業形態：講義・演習

概要：CBTとOSCEにより基本的医学知識と技能が一定水準に達していると認定されてから、臨床実習（BSL）が始まる。しかし、予測不可能な臨床現場で診療に参加するためには、更に必要なものがある。医療入門 II は、研修後まで見据えた心構え、安全に医療を行うためのルール、どの科に行っても必要とされる基本スキルを最終確認するための集中授業である。

医師として実務経験のある教員が担当する科目

学習目標：医療人としての責任の自覚、態度・行動の規範の見直し、修得した知識を現場で応用するための最終確認を行う時間である。

1. 各人が、目指す医師像を考え、それに向けた BSL の目標を持つ。
2. 「医療安全」「院内感染防止対策」「医療情報の取り扱い」の遵守事項を説明できる。
3. 基本的な検査データを型に沿って読み、陰性所見、陽性所見を把握することができる。
4. データを基に疾患と病態を説明することができる。
5. 相手に行動変容を促す、または、悪い知らせを伝える際に留意すべきことを説明できる。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	の要件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	○	
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	○	
		③	利益相反について説明できる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	○	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	○	
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	○	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	○	

3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	●	
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意を払い、診療チームの一員として議論に参加できる。	●	
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	●	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)		⑦	人体各器官の疾患 診断、治療	○	

医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参照)	⑧	全身性疾患の病態、診断、治療	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である
	⑨	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）	○	
	⑩	疫学と予防、人の死に関する法	○	
	⑪	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	○	
5. 診療の実践				
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。				
1)	病歴収集	① 患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	身体観察	① 鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●	
3)	検査の選択・結果解釈	① 頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
4)	臨床推論・鑑別	① 得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	○	
5)	診断と治療法の選択	① 適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	○	
6)	診療録作成	① 臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	○	
7)	療養計画	① 患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	○	
		② 診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。	○	
10)	根拠に基づいた医	① 医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	○	

	療 (EBM) と安全な医療	②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	○	
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	●	
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	●	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	●	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	●	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せること
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	●	

	③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	●	が単位認定の要件である
	④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	

垂直的統合授業の実施内容：「医療安全」「院内感染対策」「地域医療における医療機関の役割」は、基礎医学、社会医学、臨床医学の知識を要する。「医療面接アドバンス」では、医学的知識に行動科学の知識を統合した応用力を身に着ける。

水平的統合授業の実施内容：このコースに含まれる全ての授業が、疾患ごとに学修してきた内容を、領域横断的に扱うものである。

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：該当なし

テキスト：指定しない

参考書：「誰も教えてくれなかった診断学」野口善令、福原俊一著 医学書院

「がん医療におけるコミュニケーション・スキル」内富庸介 藤森麻衣子著 医学書院

「ケアする人の対話スキル ABCD」堀越勝著 日本看護協会出版会

「医療スタッフのための動機づけ面接法 逆引き MI 学習帳」北田雅子、磯村毅著 医歯薬出版株式会社

成績評価方法：授業への出席、演習の成果・態度を総合して判断する。

その他（メッセージ等）：下記のスケジュールは変更される場合があるので、令和2年9月以降の通知に注意し、確認すること

授業スケジュール／担当教員等：（令和2年1月現在）

	授業実施日	時限	場所	担当教員	授業内容
1	10月9日	IV	第2臨床 講義室	大内 一夫（医療安全管理部）	医療安全 1
2		V		会津医療センター 経営企画部	会津医療センター BSL オリエンテーション
3	10月12日	II		安田 恵（医療人育成・支援センター）	症例のプレゼンテーション
4		III			
5		IV			
6		V		亀岡 弥生（医療人育成・支援センター）	医療面接アドバンス② 悪い知らせを伝える

7	10月13日	I	大谷 晃司（医療人育成・支援センター）	福島県の医療の現状/卒後研修と専門研修
8		II	福島医大附属病院研修医	研修医から見たBSLの過ごし方/勉強法
9		III	金光 敬二（感染制御学講座）	院内感染症対策
10		IV	門馬 智之（医療情報部）	BSLで留意すべき医療情報の取り扱いについて
11		V	諸井 陽子（医療人育成・支援センター）	臨床実習の学習リソースについて
12		VI		
13	10月14日	I	北村 俊晴（地域・家庭医療学講座）	地域医療における医療機関の役割
14		II	小針 朱子（感染制御部）	実習を通して学ぶ院内感染防止対策の実際
15		III		
16		IV	南川 一夫（厚生労働省） 新妻 宏文（宮城刑務所医務部長）	厚生労働省医系技官「～中央官庁のお仕事及びキャリアパス～ キャリアパスとしての矯正医官
17		V	高橋 敦史（消化器内科学講座）	腹部画像診断
18		VI	金城 貴士（循環器内科学講座）	心電図の読み方
19	10月15日	I	二階堂 雄文（呼吸器内科学講座）	胸部レントゲン読影の基本
20		II	鳥羽 衛（医療安全管理部）	医療安全②
21		III	田中 健一（腎臓高血圧内科学講座）	輸液の基本
22		IV	井口 正寛（脳神経内科学講座）	神経画像診断
22		V	未定（東北厚生局指導医療官）	保険診療について